

ケロちゃん通信 第19号

2017年 1月



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1
 電話番号 0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryuu-seikyuu.jp/>

1月の診療予定

		月	火	水	木	金	土
あたごこどもクリニック	8:35 ~ 12:00	吉川	吉川	吉川	吉川	吉川 本間 (6・20日)	吉川
	13:45 ~ 15:30	乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種 (第1・3週) 発達外来 (第2・4週)		乳児健診 予防接種	乳児健診 予防接種	
	15:30 ~ 17:30	吉川	吉川		吉川	吉川 本間 (6日)	

受付開始：一般診療は午前8時35分、午後15時30分です。

☆一般診察

診療時間内に受診ください。予約は不要です。付き添いのお母さん等が体調不良の時もお気軽にご相談ください。緊急の場合や、特別な相談がある場合は、まずお電話ください。

☆発達外来 (第2・4火 13:30~15:30、予約制)

発達が心配、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくをおこしやすい、ひきつけがある等の発達や神経に関する心配がある方もお気軽にご相談ください。

☆アレルギー外来 (第1・3金 9:00~12:00 予約可)

食物アレルギー、喘息、花粉症などでお困りの方は、ご相談ください。

☆予防接種、乳児健診、発達外来受診希望の場合には、電話でご予約お願いいたします。

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。



☆新年あけましておめでとうございます

今年も地域の子どもたち、お母さん、お父さんたちのためにがんばりたいと思いますので、よろしくお願いします。

☆インフルエンザが流行してきました。しかし、インフルエンザ以外にも急に発熱する病気として、マイコプラズマ感染症、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎などがみられます。インフルエンザなのか、それ以外の病気なのかの判断が大切な季節になってきました。

☆以前より、外来での待ち時間を短くするために、予約制も検討してきました。まわりを見ても予約制を始める医院、予約制にしていたけどやめた医院など様々です。予約と直接来院された方とのバランスをどのようにとっていくかの問題だと思います。小児科の場合、一長一短があるので、どちらがよいともいいきれません。

☆当院では、まず、発達、アレルギー、夜尿症などで定期受診のある方の予約制をとり入れていきたいと思っています。定期受診・処方などで次回予約したい場合は申し出てください。

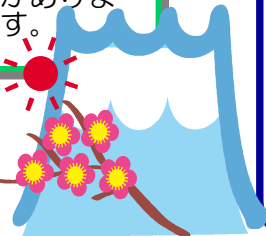
☆11月より看護師長が交替になりました。

自己紹介：岩間真理さん

- ①趣味・好きなこと：好きな事は、ドライブ、旅行、スキーです。
- ②皆様に一言・抱負：家では、3男1女の母です。(末の子は中学2年生)子育て期は色々な悩み、心配事があります。私自身、多くの方にアドバイスや助けていただき、子育てできています。成長過程の中で起こる悩みや、心配ごとを身近な人に相談するだけで、問題が解決したり心が軽くなることもあります。何か気になることがありましたら、いつでもお声掛けください。よろしくお願いします。

年末年始の休診予定：12月29日(木) - 1月3日(火)

1月4日から通常通りの診療になります。



ママモニター

☆赤ちゃんが、夜中に救急外来を受診しました。お熱もなく、せきも下痢もしていませんが、なんとなく不機嫌で、いつもと様子が違うとお母さんが心配になり受診しました。病院で診察しても喉も赤くないし、呼吸音も正常だし、おなかを触っても痛がる様子はありません。採血や検尿をしても特に異常はみられませんでした。この赤ちゃんは病気ではないのでしょうか？

☆こんな場合、一番信頼できるのはお母さんの直感です。一時も離れずにみているお母さんが「おかしい」と感じるのは、どんな診察や検査よりも有用な情報です。検査で異常がないから病気ではない、は間違いです。どんな検査より「おかあさんの感」は大切です。おかあさんが「おかしい」と思えば、やはりいつもと状態が違い「おかしい」のです。何かが起きていることは確かです。逆に高い熱が続いてぐったりしていても、お母さんが「大丈夫だと思う」場合は大丈夫な場合がほとんどです。

☆上記の場合は、すぐに入院ということではなく、お母さんに十分説明し、注意して経過をみてくださいということになると思います。その後、お熱がでたり吐いたりして、髄膜炎や腸重積などの重い病気の始まりだったりすることもあります。安易に「念のため、とりあえず」というような処方、かえって症状を見えにくくしてしまう可能性もあるので、しないほうがよいと思います。

☆大切なのは注意深い経過観察です。小児科医では、このようなお母さんの直感を「ママモニター」とか「母モニター」として重宝しています。どんな検査にも勝る赤ちゃんの病気を関知するモニターです。きっとまだ自分で症状を訴えられない赤ちゃんの命を守るために、神様が与えてくれた能力なのだと思います。

☆お母さんのおなかの中で、赤ちゃんとは結ばれていた臍の緒は生まれたときにはなくなります。しかし、病気の際は見えない臍の緒でお母さんと赤ちゃんはつながっているようにみえます。特に重い障害のあるお子さんの場合は、この臍の緒が常につながっているように僕には見えます。母と子どもは常に見えない臍の緒で結ばれていて、喜びも苦しみも常に共有しているように思えます。母は、物言えぬ赤ちゃんの痛みや苦しみを感知する能力を持っています。母は子を守り、そして子も母が生きるために多くのことをお母さんに与えてくれます。

